

# 新たな豊かさをともに創造する“協創”のまちづくり

## 1. はじめに

3月11日に発生した巨大地震とそれに伴う大津波は、東北・関東地方に甚大な被害をもたらしました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

神戸市では、地震発生時より緊急消防救助隊などを派遣し、上下水道、道路復旧調査、応急給水、避難所運営などの支援業務や、食料や飲料水、災害用仮設トイレなどの救援物資の搬送を随時行っております。また、市民からも、ボランティアの志願、救援物資の送付希望など、被災地支援についての問い合わせもたくさんいただいております。これらの被災地に対する支援につきましては、大震災を経験した私たちの使命であると考えており、今後もその経験を活かし、神戸だからこそできる支援を、現地の状況を把握しながら、継続して取り組んでまいります。

また、16年前の阪神・淡路大震災の際には、私たちが全国各地の全日本建設技術協会会員の皆様をはじめ、国内のみならず世界中の方々から、心温まるご支援や励ましをいただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

## 2. 復旧から復興のまちづくり

震災後、道路や公園、港湾施設、上下水道などの公共施設を早期に復旧するため、最大限に努力をしました。また、それに加え、震災の経験から学び、その教訓を生かした、復興のまちづくりを行ってまいりました。

復興のまちづくりとしては、市内11地区で区画整理事業を、2地区で再開発事業を実施いたしま

した。そのことにより、早期に生活再建を図ったほか、道路や公園などを計画的に整備することによる、延焼遮断帯や避難路、避難場所などの防災機能を向上させたまちづくりを推進してまいりました。

また、公共施設の耐震化について重点的に取り組んでおります。災害時に地域の避難場所になる学校園の耐震化は、平成23年度中に完了する予定です。神戸市内の緊急輸送道路上にある橋梁92橋の耐震化につきましても、現在、平成27年度完了を目標としておりますが、より早期に完了させるよう取り組んでまいります。

その他にも、下水処理場同士を連結することによる多重性のある処理場ネットワークの構築、水道管の耐震化や大容量送水管の整備、公園の下の雨水貯留施設設置など、震災経験を活かした災害に強いまちづくりを行っております。

また、地域住民の方々と丁寧に意見交換を行いながら、「防災」「減災」となる、まちづくりの取り組みを行ってきており、現在、神戸市内には小学校区単位で191地区の防災福祉コミュニティがあります。これらの防災福祉コミュニティが、いざというときに着実に行動できるよう、日ごろから訓練を重ねていくことが重要であると考えております。

さらに、平成24年4月に「危機管理センター」を開設することにより、消防の機能と危機管理機能の一体化を図り、緊急時に危機管理の指令を行うための本部として活用する予定です。

神戸市長 <sup>や</sup> <sup>だ</sup> <sup>たつ</sup> <sup>お</sup>  
矢田 立郎



### 3. 震災の教訓・経験の継承

平成23年1月現在、神戸市民の約38%は実際に震災を未経験で、神戸市役所についても、約32%の職員が震災未経験の状況であり、今後、起こりうるさまざまな災害に迅速に対応するためには「常に緊急事態に対する意識を持つこと」「緊急時の対応について訓練を行うこと」など、震災で得た教訓や経験を神戸市職員はもとより、市民の方や、全国に継承していくことが必要であり、そのことが大震災を経験した神戸市の責務であると考えております。

### 4. 神戸の新たな取り組み

神戸市は、少子・超高齢化の急速な進行や、激しさを増す国際競争など、さまざまな課題が山積する時代に対応するため、神戸のこれまでの歩みをふまえ、目標年次を平成37年（2025）とした長期的な神戸づくりの方向性を示す、第5次神戸市基本計画（「神戸づくりの指針」）を策定し、計画に基づき、まちづくりを進めております。その中でも特に、平成22年8月に阪神港が「国際コンテナ戦略港湾」に指定され、今後はアジアのハブを目指した整備を推進してまいります。さらに、産学官連携により、21世紀の成長産業である医療関連産業の集積を図る「神戸医療産業都市構想」を推進するため、新たな救急医療等の最重要拠点となる「新中央市民病院」の建設などを行っております。また、次世代スーパーコンピュータ（京速コンピュータ「京」）の整備も進めております。

まちの活性化の取り組みとして、今年10月には文化の祭典である「神戸ビエンナーレ2011」の開

催、11月には「感情と友情(Thanks&Friendship)」をテーマとし、神戸の見どころや、震災からの復興を走りながら実感できる「神戸マラソン」の開催を予定しております。さらには、2008年10月にユネスコに認定された「デザイン都市・神戸」の取り組みとして、神戸港の発展と歩みを物語る貴重な歴史的資源である「旧神戸生糸検査所」をデザイン都市のシンボルとするとともに、ユネスコが認定した世界都市とネットワークし、新たな創造を進めております。

### 5. おわりに～協創のまちづくり～

現在の日本、そして神戸をとりまく社会経済状況は厳しさを増しているなか、一方で、神戸ならではの創造性を発揮するチャンスでもあります。平成24年に放映予定のNHK大河ドラマ「平清盛」をはじめ、幕末の海軍操練所を舞台に活躍した勝海舟や坂本龍馬など、神戸にゆかりがあり、世界に飛躍した数多の先人たちの歩みについて学ぶべきであると考えております。

また、これからの神戸にとって最も大切だと考えていることは「ひと」であり、多様な「ひと」が集まり、活躍できるまちをつくる。それによって、「ひと」を「たから」として新たな豊かさとともに創造すること、すなわち、協働と参画をさらに発展的に進めた“協創”の理念のもと、神戸が住みたいまち、訪れたいまちであり続けられるよう、さらに魅力あふれる神戸のまちを市民とともに全力をあげてつくっていきたいと思います。

今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。